

=== T A C S 情報 第 1 号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和 7 年 5 月 27 日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5 月上旬の平均気温は、 15.4°C （対平年差 -0.9°C ）と平年に比べ低かった。

5 月中旬の平均気温は、 20.0°C （同 $+2.8^{\circ}\text{C}$ ）と平年に比べかなり高かった。

5 月 5 半旬の平均気温は、 18.0°C （同 -0.6°C ）と平年に比べ低かった。

(2) 降水量

5 月上旬の降水量は、 52.0mm （対平年比 119%）と平年並であった。

5 月中旬の降水量は、 29.5mm （同 69%）と平年並であった。

5 月 5 半旬の降水量は、 28.0mm （同 164%）と平年に比べ多かった。

(3) 日射量

5 月上旬の平均全天日射量は、 $19.2\text{MJ}/\text{m}^2/\text{日}$ （対平年比 108%）と平年に比べ多かった。

5 月中旬の平均全天日射量は、 $19.3\text{MJ}/\text{m}^2/\text{日}$ （同 106%）と平年に比べ多かった。

5 月 5 半旬の平均全天日射量は、 $12.2\text{MJ}/\text{m}^2/\text{日}$ （同 64%）と比べかなり少なかった。

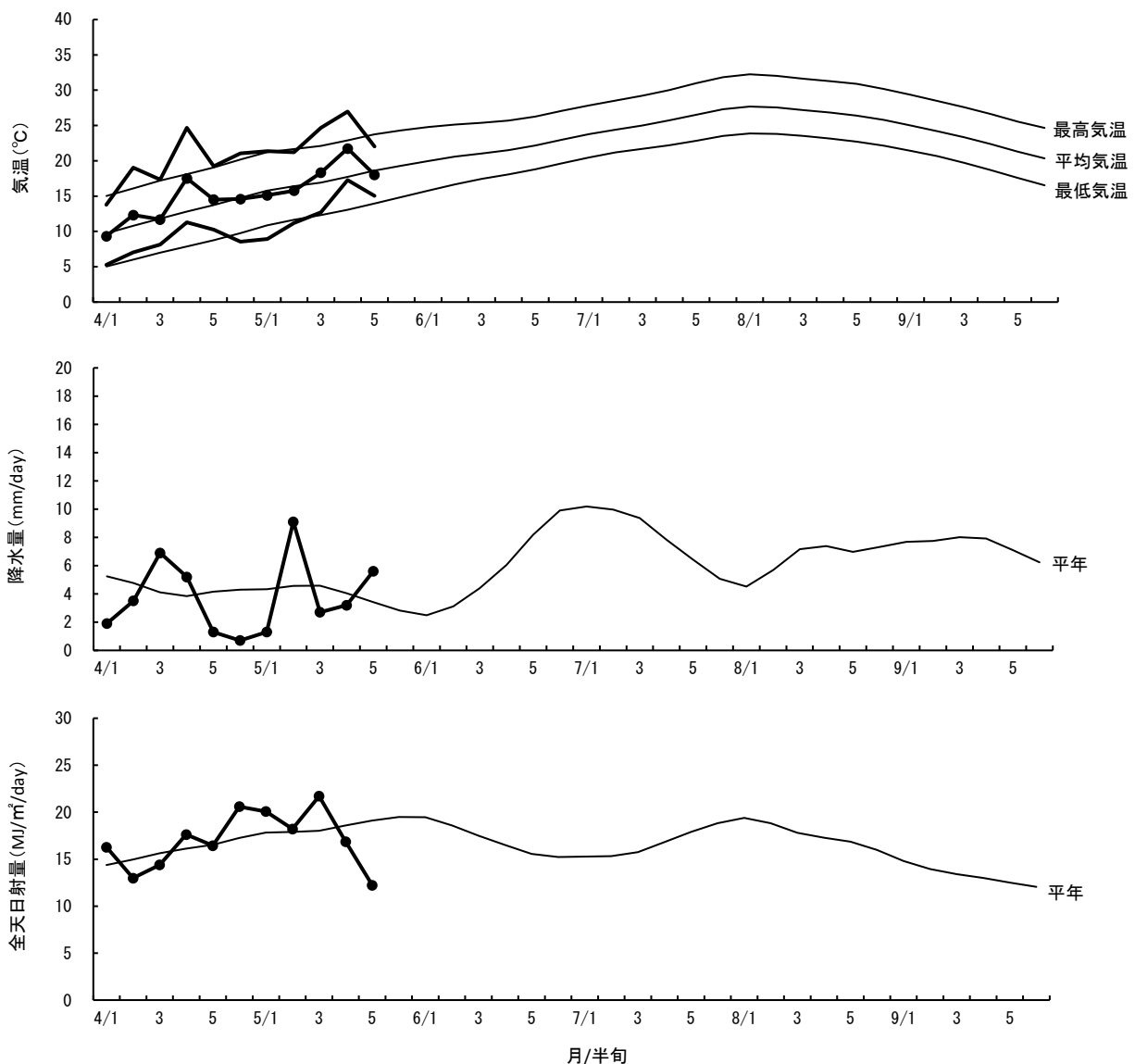


図 1 令和 7 年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

（１）苗の状況

①てんたかく

平年に比べ、草丈、葉齢、第１葉鞘長は並、乾物率は平年に比べてやや高かった。

②コシヒカリ

平年に比べ、草丈はやや短く、葉齢、第１葉鞘長、乾物率は並であった。

③てんこもり

平年に比べ、草丈は短く、葉齢は0.3葉大きく、第１葉鞘長はやや短く、乾物率は並であった。

表１ 苗の生育状況（生育観測ほ）

品種	年次	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	第１葉鞘長 (cm)	生体重 (mg)	乾物重 (mg)	乾物率 (%)	充実度 (mg/cm)
てんたかく	R 7	13.2	2.7	3.2	98.5	20.2	20.1	1.52
	R 6	13.9	3.0	3.0	98.9	20.3	20.4	1.46
	平年	13.5	2.8	3.2	91.0	17.3	18.9	1.28
	前年比・差	95	-0.3	107	100	100	99	104
	平年比・差	98	-0.1	100	108	117	106	118
コシヒカリ	R 7	13.2	2.5	3.8	83.2	16.3	19.7	1.24
	R 6	15.2	2.7	4.0	91.9	17.8	19.4	1.18
	平年	14.5	2.6	3.8	89.3	17.9	20.1	1.24
	前年比・差	87	-0.2	95	91	91	102	105
	平年比・差	91	-0.1	100	93	91	98	100
てんこもり	R 7	10.7	3.1	3.1	89.3	18.2	20.3	1.69
	R 6	11.9	3.0	3.0	83.9	17.2	20.3	1.44
	平年	12.2	2.8	3.4	86.4	17.5	20.3	1.43
	前年比・差	90	0.1	105	106	106	100	117
	平年比・差	88	0.3	92	103	104	100	118

注）平年：H27～R6年の平均、充実度：乾物重÷草丈

（２）本田での生育状況

①てんたかく

平年に比べ、草丈は並、茎数はかなり多く、葉齢は0.2葉進んでおり、葉色は淡くなっている。

②コシヒカリ

平年に比べ、草丈、茎数、葉色は並、葉齢は0.2葉進んでいる。

③てんこもり

平年に比べ、草丈は短く、茎数はやや少なく、葉齢は0.6葉遅れており、葉色はやや淡くなっている。

表２ 水稻の生育状況（５月27日 生育観測ほ）

品種	年次	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色
						(本/株)	(本/㎡)		葉色板
てんたかく	R 7	4月30日	3.4	21.4	25.4	9.4	192	6.5	4.0
	R 6	5月2日	3.4	21.4	24.7	8.0	172	6.8	4.1
	平年	5月3日	3.7	21.6	24.7	7.0	148	6.3	4.3
	前年比・差	-2	0.0	0.0	103	116	112	-0.3	-0.1
	平年比・差	-3	-0.3	-0.2	103	133	129	0.2	-0.3
コシヒカリ	R 7	5月13日	4.1	21.5	23.3	4.6	99	4.7	3.7
	R 6	5月14日	3.7	21.4	21.8	4.0	85	4.6	3.8
	平年	5月14日	3.8	21.8	22.8	4.4	96	4.5	3.8
	前年比・差	-1	0.4	0.1	107	116	117	0.1	-0.1
	平年比・差	-1	0.3	-0.3	102	105	103	0.2	-0.1
てんこもり	R 7	5月12日	4.2	19.6	18.3	5.4	106	5.1	4.0
	R 6	5月8日	3.9	18.8	22.5	7.1	133	5.9	4.1
	平年	5月8日	3.8	19.1	22.1	6.4	118	5.7	4.2
	前年比・差	4	0.3	0.8	81	76	80	-0.8	-0.1
	平年比・差	4	0.4	0.5	83	85	90	-0.6	-0.2

注）平年：H27～R6年の平均

3 当面の技術対策

- ・「てんたかく」や移植時期の早い「てんこもり」は、葉齢が進み、茎数が多くなっていることから、田植後1か月までに遅れずに溝掘り・中干しを行う。
- ・「コシヒカリ」は、水温を高め、分けつの発生を促進するため、浅水管理を徹底する。また、田植後4週間までに溝掘りを行い、中干しを開始する。
- ・ワキや藻類の発生がみられる場合は、水の入れ換えや軽い田干しを行う。

(1) 「てんたかく」、「てんこもり」の管理

田植後1か月までに中干しを遅れずに開始する。また、中干し開始前に5m(15～17条)に1本を目安に溝掘りを確実に行い、ほ場への入排水の効率を高める。

(2) 「コシヒカリ」の管理

- ・今後、気温が平年並～低い見込みであることから、田植後3週間までは2～3cmの浅水管理により水温の上昇に努め、分けつの発生を促す。
- ・田植後3週間を目安に入水を止め、適度な土壌硬度を確保した上で、田植後4週間までに溝掘りを行う。
- ・中干しは田植後4週間までに確実に開始する。

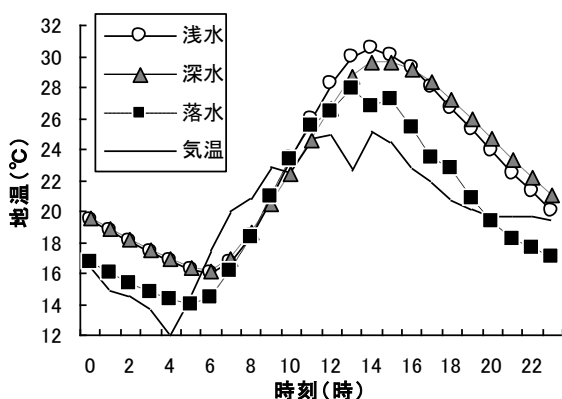


図2 晴天日における初期の水管理が地温に及ぼす影響 (H24 農研)

注1) 浅水は水深3cm程度、深水は5cm程度

注2) 地温は5/27に地中3cmで測定

(3) 共通管理

① ワキによる分けつ抑制の防止

ワキや藻類の発生がみられる場合は速やかに水の入れ換えや軽い田干しを行う。

② 雑草防除

- ・雑草の発生がみられる場合は、草種と生育期に応じて、適切な中・後期剤を散布する。
- ・湛水散布の場合は、散布後7日間は止水管理（「落水」や「かけ流し」をしない）とし、水田外への流亡を防ぐ。

③ 斑点米カメムシ対策

- ・現在、畦畔・雑草地におけるカメムシの発生数がかなり多くなっていることから、イネ科雑草の穂が出ないように草刈りを徹底する。
- ・本田内にカメムシが好むノビエやホタルイ等の雑草が残らないように、除草を徹底する。

「富富富」の生育状況と当面の技術対策

1 生育状況（生育観測ほ等データ）

（１）苗の状況

草丈、葉齢、第１葉鞘長、乾物率は近年並であった。

表１ 苗の生育状況（生育観測ほ等）

年次	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	第１葉鞘長 (cm)	生体重 (mg)	乾物重 (mg)	乾物率 (%)	充実度 (mg/cm)
R7	12.2	2.5	3.6	81.2	14.8	18.3	1.23
R6	12.9	2.6	3.7	81.2	16.2	20.2	1.26
近年	12.4	2.5	3.6	80.6	15.4	19.2	1.25
前年比・差	94	-0.1	98	100	91	91	98
近年比・差	98	0.0	99	101	96	95	99

注１）R7：10ほ場平均（生育観測ほ：４ほ場、新品種実用化・ブラ削減 対照区：６ほ場）

注２）近年値：H29～R6 平均

（２）本田での生育状況

近年に比べ、草丈は短く、茎数は少なく、葉齢は 0.2 葉遅れており、葉色は並となっている。

表２ 「富富富」の生育状況（５月27日 生育観測ほ等）

年次	田植日 (月/日)	植付本数 (本/株)	栽植密度 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/株) (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色 葉色板
R7	5月17日	3.9	21.9	17.0	4.0 87	4.1	3.8
R6	5月17日	4.2	22.0	18.2	4.5 98	4.1	3.8
近年	5月15日	3.9	21.6	20.2	4.6 99	4.3	3.9
前年比・差	0	-0.3	-0.1	94	89 89	0.0	0.0
近年比・差	2	0.0	0.3	84	87 88	-0.2	-0.1

注１）R7：10ほ場平均（生育観測ほ：４ほ場、新品種実用化・ブラ削減 対照区：６ほ場）

注２）近年値：H29～R6 平均

2 当面の技術対策

- ・水温を高め、分げつの発生を促進するため、浅水管理を徹底する。
- ・田植後４週間までに溝掘りを行い、中干しを開始する。
- ・ワキや藻類の発生がみられる場合は、水の入れ換えや軽い田干しを行う。

（１）浅水管理

- ・今後、気温が平年並～低い見込みであることから、田植後３週間までは浅水管理により水温の上昇に努め、分げつの発生を促す。
- ・ワキや藻類の発生がみられる場合は速やかに水の入れ替えや軽い田干しを行う。

（２）溝掘りと中干し

- ・田植後４週間までに溝掘りを行い、中干しを遅れず開始する。

（３）その他の管理

病害虫および雑草防除は、コシヒカリに準じて実施する。ただし、生育期間を通した化学合成農薬の成分使用回数が 12 以内となるように留意する。

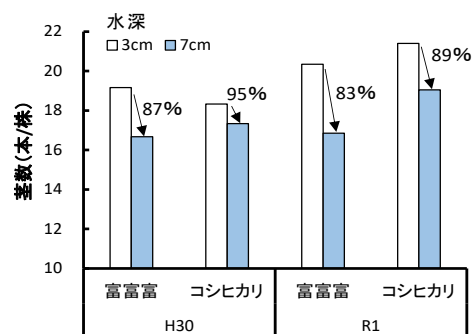


図 水深が「富富富」及び「コシヒカリ」の茎数に及ぼす影響（H30、R元 農研）

注）移植後 30 日頃の調査

【参考】富山地方气象台 2週間気温予報 (2025年5月27日14時30分更新)

